

ぎかいの杜

CONTENTS

9月定例会の審議……………	P2～3
常任委員会審査報告……………	P4～5
決算特別委員会……………	P6～7
一般質問……………	P8～13
所管事務調査報告……………	P13
議会報告会のお知らせ……	P14

NO.88 令和7年11月1日号

9月定例会などの内容をお伝えします。



国立市からのお客様を迎えてテープカット

～ 第18回北秋田市産業祭 ～

9月定例会最終日の様子は
こちらのQRコードから
ご覧いただけます。



「認定第1号 令和6年度北秋田市一般会計歳入歳出決算の認定について」の起立採決

令和7年度一般会計補正予算 18億5156万9千円を追加

令和7年 9月定例会

令和7年北秋田市議会9月定例会は、9月2日から9月26日までの25日間の会期で行われました。今定例会では、承認1件、条例案5件、補正予算案10件、単行議案2件、報告3件、認定19件のほか、最終日には、補正予算案1件、人事案件1件が提案され、いずれも原案のとおり承認、可決、認定及び同意としました。

また、継続審査となっていた陳情2件については、1件を不採択、1件を一部採択としました。

主な補正予算	予算額
ふるさと納税事業	249,365千円
未来へつなぐ元気な農山村創造事業	875千円
林業振興費（局所防災事業）	5,291千円
災害対策事業（Jアラート受信機の更新事業）	3,342千円
学校管理事業（鷹巣中学校体育館の建替関連事業）	9,765千円
伊勢堂岱縄文館管理事業（新たなグッズ開発等の事業）	10,129千円
公民館整備事業（森吉コミュニティセンター改築事業）	14,841千円
災害復旧費	1,061,496千円

9月定例会の主な議事

- 専決処分承認を求めることについて（令和7年度北秋田市一般会計補正予算（第5号））
- 公職選挙法施行令の一部を改正する政令の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について
- 北秋田市行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 北秋田市職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例及び北秋田市職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- フードセンターたかのす条例の一部を改正する条例の制定について
- 北秋田市営住宅条例の一部を改正する条例の制定について
- 令和7年度北秋田市一般会計補正予算（第6号・第7号・第8号）
- 令和7年度各特別会計補正予算
- 令和7年度各事業会計補正予算
- 財産の取得について
- （内部情報系PC・電子黒板）
- 令和6年度各会計決算の認定（19会計）
- 人権擁護委員候補者の推薦について

皆さまからの請願・陳情と意見書提出

件名	請願・陳情者氏名	結果	意見書
「選択的夫婦別性制度の導入を求める意見書」採択に関する陳情書	秋田弁護士会 会長 石田 英憲	不採択	—
再審法改正（刑事訴訟法の一部改正）の意見書の採択を求める陳情書	再審法の改正をめざす秋田の会 筆頭代表 有働 悠一	一部採択	提出

賛否が分かれた議案等の表決状況

○：賛成 ●：反対 ▼：欠席もしくは退席 除：除斥

議 案 名 所属会派・議員氏名	採決結果	清明会						新創会					日本共産党 議員団			公明党	無党派		
		小笠原 寿	永井 昌孝	佐々木正史	松橋 久敏	中嶋 洋子	長崎 克彦	堀部 壽	佐藤 文信	松橋 史尚	杉淵 一弘	五代儀義富	佐藤 重光	板垣 淳	三浦 倫美	久留嶋範子	福田 牧子	木村 謙一	福岡 由巳
※議長は採決には加わりません。																			
継審陳情第40号 「選択的夫婦別性制度の導入を求める意見書」採択に関する陳情書	不採択	●	○	●	●	●	●	－	●	●	●	●	●	○	○	○	▼	○	○
意見書案第3号 選択的夫婦別姓制度導入を求める意見書	否決	●	○	●	●	●	●	－	●	●	●	●	●	○	○	○	▼	○	○
継審陳情第44号 再審法改正（刑事訴訟法の一部改正）の意見書の採択を求める陳情書	一部採択	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	●	●	●	▼	○	○
認定第1号 令和6年度北秋田市一般会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	－	▼	○	○	○	○	●	●	●	▼	○	●
認定第17号 令和6年度北秋田市病院事業会計決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	－	▼	○	○	○	○	●	●	●	▼	○	●
認定第18号 令和6年度北秋田市水道事業会計決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	－	▼	○	○	○	○	○	○	○	▼	○	●
認定第19号 令和6年度北秋田市下水道事業会計決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	－	▼	○	○	○	○	●	●	●	▼	○	●

賛成・反対討論

▼継審陳情第40号

賛成討論 板垣 淳 議員

原案に賛成。世論調査でも多くの国民が導入に賛成している。幸せになる人を1人でも増やすのが政治なのだから世界で日本だけが行っている同性義務付けはやめて選択できるようにすべき。

▼継審陳情第44号

反対討論 板垣 淳 議員

原案に賛成。これまで「検察の不服申し立て」を認めてきたせいで再審へのハードルが高く、袴田巖さんのように人生を台無しにさせることが起きてしまった。早期に改正すべき。

賛成討論 五代儀義富 議員

陳情団体による説明を受けても検察の不服申し立て禁止の項については国に意見を述べるに足る積極的認識を得ることが出来ない。さらに手続きの整備の項を以って一定の充足が可能と考えられる。

賛成討論 福岡 由巳 議員

陳情の趣旨は再審開始決定に対する検察の不服申し立て禁止等

を求めるもので重要。これらを含めて再審法改正は急務であり、即刻改正することを求め賛成する。

▼認定第1号

反対討論 三浦 倫美 議員

道の駅たかのすリニューアルに向けた調査に関する決算に反対。市民から「33億円以上かけて道の駅を整備するより災害対策にもっと力を入れて欲しい。」と強く訴える声もある。事業に賛同できない。

反対討論 福岡 由巳 議員

北秋田市は諸物価高騰の折、下水道料金、水道料金の相次ぐ大幅値上げや森吉山の公園問題等「住民が主役のもののまち」と言いつつ市民の意見をほとんど聴くことなく進めていることは許されない。

▼認定第17号

反対討論 福岡 由巳 議員

「北秋田市市民病院事業経営強化プラン」に記載の常勤医師の増員は緊急であり、前年度比看護師等8・5人減、事務職3人減等は深刻な事態であり、医療の充実には市当局の責任ある努力が求められる。

反対討論 久留嶋範子 議員

市民病院への負担金は、9億8千万円で前年比6千374万円の増。

外来患者数の大幅減、圏域外への患者流出も多い。市民にとって無くてはならない病院であり、常勤医師の確保が欠かせない。努力不足。

▼認定第18号

反対討論 福岡 由巳 議員

市長は令和6年度早く水道料金審議会は大幅値上げを諮問、同審議会は「15年間開催されなかったことも経営状況悪化を招いた要因」と指摘。市長選前に具申を受けながら市民に伝えなかったのは遺憾。

▼認定第19号

反対討論 三浦 倫美 議員

下水道料金値上げに反対する。値上げで解決できない課題もある。市民生活は物価高騰で厳しさが増している。この社会情勢をしつかり見極めるならば、値上げは思いとどまるべきであったと考える。

反対討論 福岡 由巳 議員

下水道工事は平成20年代前半でほぼ終わっているが一部の地区だけが工事が続けられ令和6年度も2億3千万円を超える歳出、これも料金値上げに影響し市民に多く負担を求めることは認められない。

※討論は、付託された各常任委員長の報告に対して「賛成」または「反対」で行われています。
例として、委員長の報告が「可決」であった場合は、「可決」に対して賛成か反対が討論します。

総務文教常任委員会 公用車のNHK受信料未払い計上

[委員長]小笠原 寿 [副委員長]五代儀義富 [委員]杉渕一弘／板垣 淳／長崎克彦／堀部 壽

当委員会に付託された案件は、条例案3件、予算案3件、単行議案2件のほか、継続陳情審査1件の計9件でした。

一般会計補正予算の総務課の審査では、公用車などのNHK受診契約の未締結分に係る費用について、委員から「カーナビを設置する段階で、テレビが映らないように、部品を付けたら、外すを行い、受信料が発生しないようにできないか。」との質疑があり、当局からは「取り外すにも費用がかかるため、車の更新時期や、あるいはこのまま受信料を払った方が安いという選択もある。コスト的に何が優位なのかという選択になると思う。」との答弁がありました。税務課の審査では、委員から「法人市民税の還付金が増えた原因は何か。」との質疑があり、当局からは「各企業の確定申告による税額が、今年度は、1件当たりの返還額が大きい企業があり、今後の予算に不足が見込まれるため、補正をお願いするものであ

る。」との答弁がありました。

生涯学習課の審査では委員から「森吉コミュニケーションセンターの改築について、教育委員会として、図書館か図書室か、どっちがいいかと投げかけたものか。」との質疑があり、当局からは「改築にあたり、どのように図書館、図書室を利用されたいかということでお話しさせていただいた。」との答弁がありました。

以上のような審査を踏まえ、提出議案は全会一致で原案の通り可決すべきものと決しました。

また、継続陳情審査については討論を行い、採決では賛成多数で一部採択とし、採択した項目のみ記載した意見書を全会一致で提出することに決しました。

(委員長 小笠原 寿)



図書館・図書室の利用しやすさは

市民福祉常任委員会 障がい者支援と夫婦別姓制度

[委員長]永井昌孝 [副委員長]福田牧子 [委員]木村謙一／久留嶋範子／中嶋洋子／佐藤文信

当委員会に付託された案件は、条例案1件、予算案5件、継続審査の陳情1件、計7件でありました。

「フードセンターたかのす」条例の一部を改正する条例」については、審査の結果、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

令和7年度一般会計補正予算所管分、福祉課関係で身体障害者等運転免許取得費助成事業に関して、委員から「利用者数や通常の免許取得との違い」について質疑がありました。当局からは「療育手帳または身体障害者手帳を持つ市民が対象であり、就労や生活に必要な場合、審査を経て認められると自動車学校修了費用の3分の2以内、上限10万円を助成する。8月末時点ですべて3名が就職を理由に申請している。」との答弁がありました。これを踏まえ、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

また、国民健康保険特別会

計補正予算、介護保険特別会計補正予算、阿仁診療所特別会計補正予算の3件はいずれも全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。病院事業会計補正予算については、常勤医師奨励金に関する質疑があり、当局から「現在21名が対象である。」との答弁がありました。これについても全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

最後に、継審陳情第40号「選択的夫婦別姓制度の導入を求める意見書」採択に関する陳情書については、夫婦同姓による不便や女性のアイデンティティ尊重の観点から賛成すべきとの意見がある一方、最高裁判例や国会での議論の必要性を踏まえ慎重にすべきとの意見もありました。審査の結果、賛成多数により採択すべきものとし、意見書を提出することに決しました。

(委員長 永井昌孝)

産業建設常任委員会

伊勢堂岱遺跡の舗装工事について

〔委員長〕松橋久敏 〔副委員長〕福岡由巳 〔委員〕三浦倫美／松橋史尚／佐々木正史／佐藤重光

当委員会に付託された案件は、条例案1件、予算案3件の計4件でした。

北秋田市住宅条例の一部を改正する条例の制定について、委員から「明田団地は、風が非常に強い、また周囲がハザードマップでは洪水の恐れがあるとされているが、建設にあたって改善がされているのか。」との質疑があり、当局からは「風対策としては、ドアの前に目隠しを施し、床下浸水対策としては、地盤を高くすることや、換気口のない基礎を採用している。」との答弁がありました。

令和7年度一般会計補正予算の農林課の審査では、未来につなぐ元気な農山村創造事業補助金について、委員から「今年度はこの補正で終わるか。追加があれば、また補正するのか。」との質疑があり、当局からは「今回の補正は、阿仁地区での新ビジネス創出事業の実施に伴うもので、9月補

正が最後になる。」との答弁がありました。文化スポーツ課の審査では、文化振興費の工事請負費について、委員から「伊勢堂岱遺跡の舗装工事ということだが、時代に合ったものにできないか。」との質疑に、当局からは「縄文時代の資料を使うことは難しい。文化庁と協議の上、遺跡の景観に配慮し、土のように見える茶色のアスファルトで舗装を行う予定である。」との答弁がありました。上下水道課の審査では、下水道事業について、委員から「農業集落排水施設の修繕が必要になった要因はなにか。」との質疑に、当局からは「硫化水素等で腐食が進んでいるための修繕。」との答弁がありました。

以上のような審査を踏まえ、全議案を全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

（委員長 松橋久敏）

閉会中の所管事務調査報告（抜粋）

総務文教常任委員会

8月8日に「北秋田市公共施設等総合管理計画について」の調査を実施しました。平成28年度策定の本計画では29年度からの30年間で当該施設総床面積32万3千㎡から32%にあたる10万2千㎡を削減する計画ですが、令和6年度末現在で5.6%の削減に留まっており、令和8年度までの前期計画に対し26施設43の建物を残しています。これらを確認した上で、実態調査として旧合川高校校舎に出向き転用の可能性について、後から増築された部分などについての説明を受けた後、敷地内の樹木などの扱いや工事を請け負う解体業者のキャパシティについての質問等がなされて終了しました。

（文責者：副委員長 五代儀義富）

市民福祉常任委員会

8月8日に『北秋田市消防署阿仁分署の機能について』の調査を実施しました。当局より、「大規模地震にも耐えうる耐震性、非常用発電設備、精密機械を収納する無線室の他、誰でも利用できるユニバーサルトイレ、女性消防吏員用設備も備えているとの説明を受けました。質問に対して「人員配置は分署長の他、消防吏員12名、各部6名の2班体制、24時間交代制です。救急緊急出動は阿仁前田地域までが管轄となりました。県の消防広域化推進計画が進行中で令和18年度の共同運用を目指した協議が進行中、消防力の強化が期待されます」との答弁でした。

（文責者：副委員長 福田牧子）

産業建設常任委員会

8月7日に森吉山荘、誘致企業の2件について調査しました。

森吉山荘については、当局からリニューアル計画についての説明と現場視察を行いました。委員から「リニューアル後の経営方針は？」に対して、「民間事業者管理運営意向調査を行う中で施設の運営の在り方を検討していく」などの質疑がありました。

誘致企業については、㈱ヤマハミュージッククラフト秋田を視察しました。「この地のメリットは寒暖差が良く、木材乾燥に適している」や「若い従業員を徐々に増やしていきたい」などの意欲的な説明が多くありました。

（文責者：副委員長 福岡由巳）

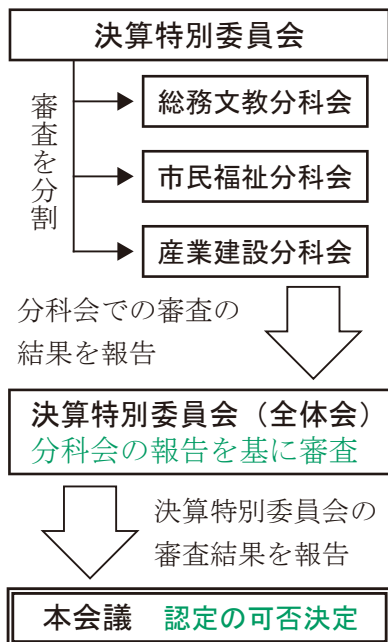
決算特別委員会

令和6年度 各会計決算を審査

今定例会には令和6年度各会計決算の認定19件が提出されました。

議会では、広範囲に及ぶ決算審査を専門的かつ効率的に行うため、9月2日の本会議において、議長と議会選出監査委員を除く16人の議員を委員とした決算特別委員会を設置しました。

審査の流れ



9月2日に委員会を開催
（委員長に長崎克彦委員）

9月2日に決算特別委員会を開催し、委員長と副委員長を互選したほか、より詳細な審査を行うため、審査は常任委員会を分科会として位置付けた「分科会方式」で行うこととし、分科会委員長は各常任委員長が務めることに決定しました。

【委員長】 長崎 克彦

【副委員長】 佐々木 正史

【分科会委員長】

総務文教 小笠原 寿
市民福祉 永井 昌孝
産業建設 松橋 久敏

各分科会の審査の中で出された質疑及び答弁を要約してお伝えします。

総務文教分科会

【委員】 秋田県内陸線が災害によつて運休せざるを得ない状況が続いている。事前の対策として考えているものは。

【答弁】 夏の災害は土砂によるものが多く、関係機関と連携しながら協力を求める対応をしている。冬の災害では倒木によるものが多いため、夏から秋にかけて危険個所の枝払いなどを実施しているが、毎年のように発生する災害の対応に時間が奪われている状況である。

【委員】 ふるさと納税について、寄付金が増えることで地方交付税には影響しないのか。

【答弁】 地方交付税は、各自自治体の基準財政需要額から基準財政収入額を差し引いた額で算出されているが、ふるさと納税寄付金は、この

基準財政収入額に算入されないため、交付税算定上には影響はない。

【委員】 昨年度、差し押さえを行ったケースはあったか。

【答弁】 動産等の差し押さえや公売は無いが、預貯金、給与、年金などの債権が38件、約8百万円の差し押さえを行った。

【委員】 学校給食費を値上げしたことについて、施政方針に沿って値上げをしないようにという議論は行われなかったか。

【答弁】 栄養価の高い給食を提供したいという思いや、子供たちの食育のために、値



分科会ごとの市長に対する総括質疑

上げをさせていただいたところである。

市民福祉分科会

【委員】 救命士養成事業について、現在の人数と体制はどうか。

【答弁】 令和6年度末で26名、今年度は27名となった。救急車1台につき6名、計30名を目標としているが退職者もあり不足している。毎年1名の養成を継続して取り組んでいく。

【委員】 避難行動要支援者システムはどのような仕組みか。

【答弁】 ケアマネ等が作成した計画を入力し管理する仕組みで、紙ベースでも出力して活用できる。

【委員】 家庭相談員を2名から3名に増やした理由は。

【答弁】 相談内容の困難化に対応するため、また人材育成の観点から1名増員した。

【委員】 エアコン・補聴器補助金について、非課税世帯に限定せず拡大できないか。

【答弁】 低所得者を対象として

始めたものであり、現行の非課税世帯要件を維持している。

【委員】 新型コロナウイルスの

接種率が低迷した要因は。

【答弁】 自己負担額が約4千円

と高額で、副反応への懸念も影響した。今年度は自己負担を軽減し、広報を強化して接種率向上を目指す。

【委員】 空家対策の調査について、委託先と結果は。

【答弁】 立入調査は市内建築士、

実態調査は秋田市の業者に委託。結果、特定空家相当60件、管理不全空家相当12件を確認した。

【委員】 高校生向け介護職員初

任者研修の受講者数は。

【答弁】 令和6年度は6名が受

講し、そのうち2名が市内介護事業所に就職した。

【委員】 阿仁診療所の看取りや

在宅医療の体制は。

【答弁】 平日診療時間内は対応している。今後、必要な体制を整備し夜間等も可能な

限り対応していく。

【委員】 市民病院の外来患者減

少や分娩中止についての認識は。

【答弁】 人口減少や診療科縮小

により患者流出が生じている。常勤医師の確保が課題であり、指定管理者と連携し市民病院の存続を最優先に持続可能な体制を進める。

産業建設分科会

【委員】 「道の駅たかのす」の

リニューアルは多額の建設費が見込まれ、将来への投資として、進めることに賛同できないが、市長の考えは。

【答弁】 森吉山などの地域資源

を活かした観光拠点、地場産品の販売など農林業や商業の地域振興の核となる施設を目指している。多方向にわたる波及効果が期待され、本市の将来を見据えた極めて大切な投資である。**【委員】** 森吉山国立・国定公園化推進事業について、高校

生等との対話集会の開催だ

けでは不十分であった。市民の合意を得るために、シンポジウムの開催が必要だったのではないか。

【答弁】 高校生の対話集会企画

や、環境省職員によるZ世代の対談企画は、これからの北秋田市を担う若者に、森吉山の国立・国定公園化への理解と関心を深めてもらうもので、有意義な取組だったと認識している。

【委員】 下水道料金の値上げに

ついて、市民生活の現状は物価高で厳しさを増しており、値上げは思いとどまらべきであつたのではないか。

【答弁】 下水道事業の課題は、

施設の老朽化による維持管理費の増大や人口減少による収入減と捉えており、今後は一層の経費削減と加入率の向上が必要。料金の値上げは、受益者の負担を考慮し、上げ幅も精査したうえで、必要な改定を行った。

【本会議・最終日】

決算特別委員長の審査報告

委員長 長崎 克彦

本委員会に付託された事件は19件でありました。

9月2日に決算特別委員会を設置、9月11日、12日に3つの分科会による詳細な審査を行い、9月19日には市長に対する総括質疑を実施し、9月24日に結審いたしました。その結果について認定番号順にその結果をご報告いたします。

また、認定第2号「令和6年度北秋田市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定」から認定第16号「令和6年度北秋田市大阿仁財産区特別会計歳入歳出決算の認定」までの特別会計15件については、すべて全会一致で「認定すべきもの」と決しました。

次に、認定第17号「令和6年度北秋田市病院事業会計決算の認定」、認定第18号「令和6年度北秋田市水道事業会計決算の認定」、認定第19号「令和6年度北秋田市下水道事業会計決算の認定」の3件は、賛成多数で「認定すべきもの」と決しました。以上が、本特別委員会に付託されました事件の報告であります。

一般質問は、9月8日・9日の2日間で行われ、10人の議員が登壇しました。

久留嶋 範子 議員 (P 8)

- ◆異常気象への対策について
- ◆新型コロナ感染者数の増加傾向について
- ◆ヤングケアラーへの対応について

木村 謙一 議員 (P 9)

- ◆高齢者支援について
- ◆森吉山の国立公園化について
- ◆オストメイト用設備について
- ◆大雨による災害について

松橋 久敏 議員 (P 9)

- ◆空家対策等について
- ◆森林経営管理制度について
- ◆観光振興について

福岡 由巳 議員 (P 10)

- ◆森吉山の国立公園早期実現に向けて
- ◆森吉山荘の営業再開について

三浦 倫美 議員 (P 10)

- ◆大雨災害について
- ◆農業支援策について

杉淵 一弘 議員 (P 11)

- ◆農業振興について
- ◆安全・安心なまちづくりについて

福田 牧子 議員 (P 11)

- ◆医療サービス向上について
- ◆気候変動時代の農業振興と防災対策について
- ◆被災者への支援のあり方について

小笠原 寿 議員 (P 12)

- ◆地域振興について

板垣 淳 議員 (P 12)

- ◆道の駅たかのす整備計画について
- ◆選択的夫婦別姓について
- ◆アメリカ空軍オスプレイの緊急着陸について

五代儀 義富 議員 (P 13)

- ◆資源ゴミ回収のルールについて
- ◆新設道路の安全対策について

※QRコードから一般質問の映像がご覧いただけます

久留嶋 範子 議員

(日本共産党議員団)



異常気象により 熱中症対策は十分か

Q 今年の夏も続く異常な暑さ、猛暑や豪雨などの異常気象は地球温暖化により深刻化している。猛暑により熱中症で搬送される人が増えている。高齢者などの見守り活動はどのように行っているのか。

A 民生委員や老人クラブ、地域包括センターによる訪問、食の自立支援事業を通じた安否確認などを実施。声かけも行っている。

Q 新型コロナウイルス感染は増加傾向にある。ワクチン接種に対する補助の拡大など予防対策が必要だが。

A 県内全体では、8月24日までに累計61施設で発生、感染者数は高水準にある。基本的な感染防止対策手洗い・消毒、換気、マスク着用について改めて周知を行うとともにワクチン接種の推進に努めていく。

いく。国の助成が終了したため、市の助成を増額し、自己負担額を約4千円から約3千円に軽減した。市内3診療所で、市プレミアム付応援チケットを接種費用の支払いに利用できるようにするなどして接種率の向上を図っていく。

Q 市では、こどもの生活に関するアンケート調査を実施(7/10、7/31)したが、結果を受けてどのように対策を考えているのか。

A 今年度、小学校5年生から高校生年代までの1千427人を対象に実施し、898人から回答をいただいた。アンケート結果を十分に精査し、特に支援が必要なこどもを中心に、教育委員会と連携し、一人ひとりの状況に応じたアプローチを行い、必要な支援につなげていきたい。



3診療所で利用できる
プレミアム付応援チケット

木村 謙一 議員

(無所属)

高齢者の買い物
支援の取組は

Q 買い物に行くことに困難を抱える人は、高齢化によって増加傾向にあり買い物に行きたくても行けず、食料品購入等に苦労している方がいる。現状の高齢者の買い物支援制度について伺う。

A 福祉有償運送があるが、対象者は要介護4から5の方や、車椅子、ストレッチャーを必要とされる方など、公共交通機関の利用が困難な方が対象。住民が主体となって移動を支援する仕組みづくりが検討されている地区もある。

Q 森吉山国定公園の新規指定に關し、市長は山岳団体との要望書提出の懇談で「一気に国立ではなく国定の段階を踏んでからでもよいのでは」と述べた考えは変わらな

A 当時の発言は山岳会の皆さんの

意向として受け止めたもので、市として「国立化」「国定化」の方針を示したのではない。

Q 環境省の調査結果説明があつたので、住民説明会を開催できないか。

A 国、県と協議し説明会などを開きたい。

Q オストメイト対応トイレの設置状況は。

A 大館能代空港ターミナルビルや市役所本庁舎をはじめ12施設に設置している。

Q 大雨による災害を防ぐため、河川に監視カメラを設置できないか。

A 現時点で市としてカメラの設置は検討していないが、今後、国、

Q 大雨による災害に対する家屋の浸水を防ぐ土のうの確保や備蓄をしておくことができないか。

A 本庁舎や消防本部、各分署で常時、合計でおよそ千袋の土のうを確保している。



国立化・国定化？

松橋 久敏 議員

(清明会)

森林経営管理制度の
推進を

Q 特定空家になるおそれのある「管理不全空家」の認定件数と指導・勧告の状況は。

A 昨年度実施した空家等実態調査の結果、「管理不全空家に相当するレベルのもの」は12件であった。指導や勧告等については、今後適切に対応する。また、市全体の空家は1千431件、うち「特定空家に相当するレベルのもの」は60件であった。

Q 特定空家を増やさないため管理不全空家の対策は重要、今後の取組は。

A 今年度、特定空家及び管理不全空家の所有者を確定し、解体助成など支援制度の周知を兼ね意向調査を実施する。

Q 森林管理意向調査の進捗と森林

管理集積計画の作成状況は。また、経営管理権の設定(再委託)をどのように進めているのか。

A 令和6年度末まで対象森林の約39%の3千900haの調査が終了している。経営管理集積計画の策定に至った森林は152haになつている。策定済みの森林については、市のホームページで再委託先を募集しているが、個々の面積が小さく点在していることから再委託に至っていない。

Q 阿仁地区に設置している観光案内看板は色褪せや破損などで劣化している。更新の考えは。

A 表示内容の変更や老朽化による破損が生じた場合、随時修繕等を行っている。阿仁地区の看板を含め、老朽化や破損状況を確認しながら、適切な維持管理に務める。



森林管理意向調査の説明会

福岡 由巳 議員

(無所属)



市長は環境省の方針に是非か

Q 環境省は6月30日、秋田県と関係市町村に森吉山国立・国定公園化に関わる「八幡平周辺の調査結果について」を説明した。それによると「森吉山は、八幡平と類似する風景形式の範囲は山頂部にとどまり、(国立公園編入は)十分な指定効果が得られない」。また、「森吉山は、大規模な一枚岩盤のV字谷、滝、甌穴群は全国的にも稀であり、国立公園に準じて傑出するものと認められ、国定公園の新規指定を検討」との方針を示した。これについては是非か市長の判断をうかがう。

A 環境省からは公園指定に係る検討の方向性を示したもので決定でないことを確認している。

Q 環境省の説明では、「これまで

皆さんからいただいた意見も踏まえて調査も検討も行ったとして国立公園化の区分の方針は終わった。今後は指定区域の範囲、必要な利用施設計画(県・北秋田市)等の検討を進めるとしている。この点についてはいかがか。

A 「森吉山を中核とする国定公園の指定を検討」することが決定済みというような誤解を招くような表現になっているというような指摘もある。

Q 市民には国立公園要望と国定公園要望の団体がある。このままでは秋田県は国に申し出ができない。環境省待ちで解決できるのか。

A 市は国から正式な方針が出ればその方針を尊重するのでその方向で作業を進めたい。



国定公園化には打当川も

三浦 倫美 議員

(日本共産党議員団)



大雨災害への支援策拡充を

Q 8月2回の大雨災害被害状況は。8月6日から8日の大雨で避難1世帯。8月15日時点で床下浸水3件。農作物、農地、農業用施設、林道、河川の総被害額6414万円。8月20日、21日の大雨で避難34世帯。8月25日時点で床上浸水1件、床下浸水20件。農作物、農地、農業用施設、林道、河川、道路の総被害額8億2290万円。

Q 住家、非住家被害支援策拡充を。北秋田市災害罹災者自立支援、床上浸水10万円。床下浸水2万円支給。県の支援制度は床上浸水20万円の見舞金。北秋田市住宅リフォーム支援事業補助金も災害復旧型に改正。今後さらなる支援拡充へ、調査、研究を進めていく。

Q 県へ羽根山沢川改修要望強化を。

A 羽立自治会からの要望を県に伝えており市も積極的に要望を行う。県は雑木伐採や土砂除去を昨年度から実施し計画的に取組んでいる。

Q 農業支援策、渇水対策は。

A 渇水被害対策緊急支援事業で、ポンプやタンク購入、機械リースや燃料費等に支援を行っている。

Q 鳥獣被害対策は。

A 追い払いや電気柵導入、放任果樹木伐採を支援強化し、今後は専門家等との意見交換や研修等、地域ぐるみの対策へ取組んでいく。

Q 小規模農家への支援策は。

A 小規模農家営農継続支援事業、農業用機械購入費用の3分の1以内、上限額30万円補助。市内の認定農業者以外の販売農家対策。今年度、4月1日から6月30日まで募集し、13件の経営体が活用した。



氾濫が頻発する羽根山沢川

杉 渕 一 弘 議員

(新創会)



市民へ「お米」

クーポン券配布を

Q 米政策について、令和6年度水田収益力強化ビジョンの見直しが必要ではないか。

A 令和7年産米の概算金の大幅増や国の増産方針を踏まえると、今後は主食用米の作付けが増え、加工用米・飼料用米の作付けは減少すると推察される。今後は国の動向を注視し、ビジョンの見直しなどについて慎重に検討を進めていく。

Q 主食用米の価格が高騰していることを受け、全市民に米の購入時に使えるクーポン券を配布してはどうか。

A 物価高騰対策として現在実施しているプレミアム付応援チケット事業に続き、切れ目のない支援を行うため、1人当たりの購入限度

額を2倍に増額したチケット事業第2弾を10月1日から実施する。

お米の購入にもご利用頂けるので、より多くの市民の皆さまにご利用頂けるよう事業を進めていく。

Q 安心・安全なまちづくりのため、特に市内での防犯カメラの設置状況はどうか。

A 市の設置分は8月末現在で計9台である。今後は北秋田警察署や関係機関と設置場所を協議しながら進めていく。

Q 希望する自治会へ防犯カメラの設置費用を一部補助してはどうか。

A 全国的に人口の多い自治体で実施例も見られるが、本市では希望する自治会はない。今後は県内各市町村の状況も踏まえ検討していく。



「価格高騰」お米クーポン券を!!

福 田 牧 子 議員

(公明党)



病院送迎バス運行

農業支援と防災

Q 市民病院へのアクセスに1回の通院のタクシー代が8千円〜2万円、1日がかりの住民が居る。現状の公共交通の運行状況では、不便との声。病院から最寄り駅までの送迎バスの運行は、全国的に展開されている医療サービス、導入できないか。あるいは、タクシー

A 診療の受付及び終了時間に合わせて配慮した路線バス乗り入れ、オンデマンド型乗合タクシーで市内全域のアクセスをカバー。総合的な見地から現実的ではない。支援の在り方を研究する。

Q 気候変動による渇水・高温・大雨から農業を守り、離農を防ぐ対策は。「あきたこまちR」は、高温・渇水に適応できる品種か。

A 渇水対策支援6件の申請。現段階で離農の声はない。「あきたこまち」は、冷害に強い品種だが、「こまちR」は資料を持ち合わせてない。

Q 前山から坊沢の米代川流域の耕作地域の冠水の原因と対策は。

A 米代川左岸の農地は標高が低い。ため本川の水位上昇に伴う支流逆流による溢水。米代川圏域流域治水協議会に働きかける。

Q 綴子前野地区の民家道路の土砂流出と冠水の原因と対策は。

A 市道に接する私有地からの土砂の流入で側溝が埋まったことが原因。所有者に措置を依頼。

Q 被災者の市職員の対応が異なり困っている。「マニュアル」が必要。厚労省の公表チラシを用いて説明。消毒等が必要に応じて職員対応。



被災後、消毒無く片付け

小笠原 寿 議員

(清明会)

道の駅たかのすで
ブランド肉直売を

Q 北秋田市内には鶏・豚・牛のブランド肉の生産事業者がいる。この食肉・畜産加工品を道の駅「たかのす」で地元特産品直売所として販売すれば、それらを目的に多くの人が訪れるようになるのでは。

A 冬期間における野菜・果物の農産物の集荷が課題となる中、ブランド家畜の食肉・畜産加工品の活用は極めて有効であると考えられる。地元事業者と意見交換を行い、前向きに検討していく。

Q 道の駅「たかのす」に県内にはまだ少ない車中泊のできる「RVパーキングスペース」の設置を。

A 車中泊以外の利用者や周辺住民への影響等も考慮する必要があることから、事例等も参考にしながら有効性について検討する。



地域の魅力発信の駅に

Q 関係機関と交渉し、日本海沿岸自動車道鷹巣インターチェンジ周辺に「道の駅たかのす・世界一の大太鼓の里」の案内看板設置を。

A 利用者の誘導手段として効果的な案内・誘導看板の設置については今後、関係機関と協議していく。

Q 森吉山荘は賃借の土地にある。多額の改修費が予想されることから、市の所有地に新築で建設する方が事業費を抑制できると思うが。

A 現時点では新たな施設を建設することは考えていない。

Q 森吉山荘に近い温泉宿泊施設が事業承継により経営者が変わり、リニューアルオープンされた。森吉山荘の担う役割を託せないか。

A 役割分担を明確にし、相乗効果が得られるよう取り組んでいく。

板垣 淳 議員

(日本共産党議員団)

大金投入の道の駅
整備に疑問

Q 道の駅たかのす整備計画に市民から批判が多い。それは物価高で生活が大変というときにハコモノに大金をかけることに納得できないから。計画は一旦撤回し、検討し直すべきだ。

A 市の将来にとって必要な事業である。市民の皆様理解を深めてもらえるよう周知方法については検討する。

Q 整備費用が市長選の前は13億円台だったのが、市長選が終わったとたん33億円台になった。しかも「必ずしもそれで納まるとは言い切れない」とまで述べたので驚いている。

A 物価高なので正確な額を言うのは困難だが、それ以上は上回らないよう努力する。



空港に緊急着陸したオスプレイ

Q 道の駅で市が活性化するというが、その根拠は。

A 地域振興の拠点として生まれ変わり、交流人口と消費が拡大し、市が活性化する。

Q 美辞麗句を並べ立てたときの事業は得てして失敗するということを指摘しておく。次に選択的夫婦別姓導入について。市長は賛成か反対か。

A 国民の理解のもとに進められると考えている。

Q 墜落死亡事故を何度も起こしている米軍のオスプレイが大館能代空港に緊急着陸した。北秋田市の上空で飛行訓練をしないよう米軍に抗議すべきだ。

A 県を通じて国に対し、安全管理の徹底と再発防止を申し入れた。

五代儀 義富 議員

(新創会)

先手を打つ安全対策
転ばぬ先の杖

Q 古紙の回収ルールに「納得できない」という事例が多くあり、市民感情が損なわれているようだ。市民との信頼関係に基づく運用を為されたい。

A 資源回収業者への引き渡し区分に従って分別をお願いしているものであるが一部の扱いについては見直しを検討する。今後も住民に理解と協力を頂けるよう、親切かつ丁寧な説明と対応を心掛ける。

Q この春完成した北家後西屋敷線に渡る柳生橋は、幅が狭く車両の交差も出来ず歩道もない。折しも鷹巣中学校の通学路に指定されて交通量の増加が予想される中、早急な対策が必要ではないか

A 橋梁完成後の社会情勢の変化を踏まえ、拡幅について検討された

が事業化に至ってはいないのが実情である。今後については関係部署と緊密に連携をして安全確保に努めてゆく。

Q 橋の架け換えが困難であっても安全確保のために出来る事は他にもあると思う。橋の上を一方通行とすると、歩行者専用の簡便な橋を新たに架けるなどはどうか

A 一方通行は警察との協議が可能と思うので検討したい。歩行者専用の橋については一案として可能性を探っているが、県との協議が必要となり、様々な条件が出てくると思われるが検討していきたい。

Q 取り敢えずは「安全の確保に向けて取り組み」と言いう回答と受け止める。早急に出来得る限りの努力をお願いしたい。



ここを車も通る！
安全はお互いの譲り合い

所管事務調査報告

広報広聴特別委員会

藤沢市を視察研修

調査項目

▽カフェトークふじさわについて

広報広聴特別委員会では、議会報告会の新たな手法を探るため、神奈川県藤沢市の「カフェトークふじさわ」の取り組みを視察しました。藤沢市では従来の報告会において、参加者の固定化や対立的な雰囲気、市政への苦情が目立ち、建設的な議論が困難となっていたことから、報告会の見直しが進められていました。

時出された意見を付箋に記録して新たなメンバーでシェアします。これを数回繰り返して、最後にグループ発表を行います。

当日の意見は議員が報告書にまとめ、事務局が「意見集約書」を作成。委員会で確認後、議長を経て議会運営委員会へ提出され、市長に「政策提言書」として届けられます。

「旅人」という呼称は、対話の旅を通じて多様な視点を得るという意味が込められており、非常に印象的でした。北秋田市においても、市民との対話を深める有効な手法として、ぜひ実施したいと考えていますが、面積の広いことから現状4か所での分散開催としている北秋田市では、高いハードルを越える工夫が必要と思われます。

(文責者…委員長 五代儀義富)



令和6年度
カフェトークふじさわの様子
「出典：神奈川県藤沢市HP」

